

あの、社長さん

アイベック

東出悦子氏

北陸経済

真新しい社屋の2階に案内されると、IT企業のオフィスのような雰囲気だった。作業服姿とスーツ姿の社員が同じフロアで働いているが、部署を示す表示もない。聞けば社員の席を決めないフリーアドレスを導入したという。

「図書館で仕事をする感覚ですね。米国で25年前に経験しました。富山でも少しずつ増えていますよ」。ヤフーなど先進的なオフィスを10社ほど見に行き、研究したそうだ。

働き方改革を実現

社員全員にモバイルPCを貸与し、ペーパーレスでどこでも仕事ができるようにした。現場から会社に戻らなくても空き時間に報告書を作成できる。最終的には検査報告書を書面で提出することもあり、移転前の社内は紙だらけだった。業務効率化で働き方改革を実現すれば、介護や育児での離職を防ぎ、社員が働きやすい環境を整えられる。

道路や橋などインフラや水力発電所などの検査、診断が主な業務だ。レントゲンや超音波も使う構造物の医師とも言え、創業以来の社は「見えないものをみる」である。

インフラも予防診断



若手社員と打ち合わせする東出社長（左から2人目）
オフィスには机に画像を映し出す最新装置も導入して
—富山市の本社

力を入れるのは予防保全だ。人間も検査機器を身につけ、数値を毎日記録して異常を自動的に知らせる時代である。機械もIoT（モノのインターネット）で常時監視したほうが異常を早く見つけ、安価に修理できる。「ワンフロアで部署の

垣根を越えた提案ができる」。検査機器の最新情報を顧客に伝え、提案力の強化につなげたい。

世界一周の旅が転機

父が創業した会社だが家族の誰も跡継ぎとは思っていなかった。大学から米国

に渡り、帰国後も東京の外資系企業で勤務。その後、「外国人に日本の神髄を見てもらえるツアーガイドになりたい」と難関の通訳案内士を取得。NGOの「ピースボート」の通訳に採用され、世界一周の旅に出た。これが転機になる。

発展途上で貧しい子どもや困った女性を救う団体などと交流するうちに人生を考え、「どこで自分が貢献できるかと考えたら故郷かなど。育ててもらった富山に恩返ししたい」

畑遣いの仕事に最初は失敗ばかりだった。財務諸表が得意なだけでは経営はできないと最近現場に出るようになっている。

「うちの仕事は地域にとってすごく大切。誰かが守らなければならない」。若い人に技術を継承し、富山ではまだ少ない女性管理職を育てることも自らの責任と感している。

（政経部長・松田純）

企業データから

アイベック(富山市) 非破壊検査、コンクリート調査。土木系とIoTのコンサルティング業務など。資本金3千万円。従業員は76人。

磁石や電気、超音波、レントゲンなどを駆使して道路やトンネル、橋りょうなどの社会インフラの調査、耐震診断などに取り組んでおり、金属やコンクリートの構造物も総合的に診断できる。

協会CIW認定A種企業。社員のうち技術者が50人を占め、資格保有数は250に達する。富山市上野新町で本社と分室に分かれていた拠点を、今月から同市中田1丁目に統合移転し、新社屋で業務を開始した。

◇毎週火、水、木、金曜日に掲載します。